

今回の連載テーマ

読んで欲しい！映像化された本

今回は、映像化された本の中からおすすめを紹介します。
図書館には映像化された人気作の原作やノバライズ本がたくさんあります。映画やアニメ、ドラマで見た作品を次は文字で読んでみませんか？

<本の紹介>

『天久鷹央の推理カルテ』 知念実希人/著 新潮社

各科で「診療困難」と判断された患者が集められる“統括診断部”。河童と遭遇したと語る少年、人魂を見たと訴える看護師、そんな摩訶不思議な事件には思いもよらぬ病が隠されていた…。頭脳明晰、博覧強記の天才女医・天久鷹央と助手の小鳥遊優が解き明かすメディカルストーリー。

この小説は、シリーズ物で患者の診断だけでなく、天久鷹央の推理力で犯罪を止めたり犯人を暴いたり緊張するシーンもあり、とてもおすすめの作品です。また、この作品はアニメ化、ドラマ化もしています。

ぜひ手に取って読んでみてください。

(担当:1D)

著作権法上
書影削除

<本の紹介>

『小説映画聲の形』 川崎美羽/著 講談社

“退屈すること”を嫌う少年、石田将也。ガキ大将だった小学生の彼は、耳の聞こえない転校生の少女、西宮硝子を毎日いじることで好奇心を満たしていた。耐えきれなくなった彼女は転校してしまう。そのことがきっかけで石田将也は転校させた人となり、周囲から孤立してしまう。そのままの関係で別々に高校生になったふたりだったが“ある出来事”以来固く心を閉ざしていた将也は硝子の元を訪れる。

この小説は映画『聲の形』を小説化したもので、ともにおすすめの作品です。

(担当:2A)

著作権法上
書影削除

<本の紹介>

『チ。—地球の運動について—』 魚豊/作・画 小学館

タイトルが印象的です。全巻読みました。とても面白かったです。

「チ。」この物語にはいろんなテーマがありました。知、地、血。主人公は一人ではありません。思いがだんだんつながっていくのが心に響きました。

漫画は絵が多くて読みやすいです。

アニメもあるので、ぜひ読んでみてください。

(担当:2F)

著作権法上
書影削除

<第3回教養講座振り返り>

教養講座アンケートでの質問に回答をいただきました！抜粋して紹介します。

Q.アフリカの生活で、もっとも日本との違いを感じたことは何か

A. もっとも印象に残っていることは、ルールや規則よりも、個々人の意思や希望が尊重されることです。それが子どもであっても、本人の意思に反して何かをさせるようなことをすると、むしろ咎められます。ルールを守ることよりも、それぞれがその場の状況を見極めながら、そこに関わる人々皆が居心地の良い状態をつくることを優先しているように思えます。このあたりのことを詳しくお話ししているので、興味があったら、ポッドキャスト「働くことの人類学」の私が担当した第2回を聴いてもらえると嬉しいです。

Q.アフリカは多くの民族で構成されていても、互いの文化を尊重し、共生している印象があるが、実際はどうだったか

A. まさに、同じような印象を、私も思っています。私がフィールドワークをさせてもらっているサン(あるいはブッシュマン)の人々は、わずか数千人の話者人口しかない少数言語話者です。それは、そのように少数であっても、他の言語に飲みこまれずに、維持され続けているという状況があるということです。母語が違う人どうしが、どちらかの言語で話すのではなく、両者ともに母語を話し、両者とも相手の母語を聞き取りながら会話をする…という場面に出くわすことがあります。異なる文化を持つ人々を排除したり抑圧したりすることなく一緒に暮らしていく方法のヒントが、アフリカにはたくさんあるように思います。

<本の紹介>

講師をしていただいた丸山淳子教授が携わった本が入荷しました。ぜひ読んでみてください。

『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』
生態人類学会/編 京都大学学術出版会

著作権法上
書影削除